

氏に従へば群島には山が多くて、勘察加やアラスカと同様に極地高山要素が主要な分子を成して居るかと思像されるが、實際は、此れに反し此要素は群島の中央部では極貧弱で、ベーリング地帯及太平洋北部のみに分布して居る要素が重要なものと云ふ。そして群島の地形上から云ふと北米大陸の方に深い関係があり相に思へるのにかかはらず、實際此群島のフロラは亞細亞大陸の延長であり、植物相は勘察加によく類似して居ると。同群島中には森林が全く存在せず、且栽培の *Picea sitchensis* Car. を除き裸子植物を見ず、又コンマンドル諸島及アラスカ半島を除けばハンノキ、カンバの屬すらも見る事が出来ない。東はアラスカ半島の西端から西はコンマンドル諸島までを通じて僅かに 477 種しかなく、本群島の兩端地方に比し著しく種類が少く、吾が北千島全體よりは多い程度でフロラとしては貧弱である、此れは氷紀に於て同群島の殆全部が氷で被はれてしまつた爲め、大部分の植物は一度絶滅してしまつたによると考へて居る、(此の説明はともあれ事實は丁度北千島のそれにもあてはまる様に思はれる、南千島及勘察加に森林があるのにかかはらず北千島ではハヒマツ、ミヤマハンノキ等はあるが森林は全く存在せず、且その兩端の何れの地方よりも所産植物が著しく少ない)。

文献、異名、産地に次いで著者のノートがあり、全體を通じて比較的重要な部分をなして居る。そして世界の分布に終る各種類についての説明が 45 頁から初まり 342 頁で終つて居る、卷中所々に美しい寫眞版が挿入されて居て見る目をたのしませるに充分である。

(大井次三郎)

スタツプ氏:—リュウノウギク (O. STAFF:—*Chrysanthemum Makinoi* MATSUM. et NAKAI in Curtis's Botanical Magazine Tab. 9330 (1933).

Kew のスタツプ氏はリュウノウギクの圖説を Curtis's Bot. Mag. でやつた。これは中井教授のノヂギクに關する研究を讀んで其の結果菊の原種に關して論じてゐる。リュウノウギクの圖を色彩を入れて出してゐる、姿はよく出來てゐるが總苞の擴大圖がカーチスとしては一寸まづい。同氏は家菊は多系から出來上つたものだと考へてゐる。即ち MAXIMOWICZ 氏の系を引く考へで私もこの説に今のところ賛成である、尙同氏は *Chrysanthemum morifolium* var. *gracile* HEMSL. を *Chrysanthemum erubescens* STAFF としたがこの植物は *Chrysanthemum sibiricum* var. *latilobum* KOMAROV であつて、LING 氏が 2 年後 *Chrysanthemum Maximowiczianum* LING としたのと同じで共に異名となる。尙スタツプ氏は *Chrysanthemum sinense* var. *vestitum* HEMSL. を *Chrysanthemum vestitum* O. STAFF. とした。其の後これあるを知らず LING 氏も小生も別々に *Chrysanthemum vestitum* としたがスタツプ氏のが早くて正しい。京大の圖書室では不幸にしてカーチ

スのこの號が買つてなかつたので不用の名を出したのは残念である。(北村四郎)

チワルド氏：双鞭毛藻の有性生殖 (K. DIWALD:—Die geschlechtliche Fortpflanzung von *Glenodinium*, in Flora n. f. Bd. 32, s. s. 174—192, 1938.)

従来双鞭毛藻類 (*Dinoflagellata*) の有性生殖は夜光虫を除きて不明なりしが今回氏は *Glenodinium lubiniensis* DIWALD n.sp. に就き普通の二分々裂は勿論遊走孢子形成、休眠孢子形成より配偶子の接合及び接合子の發芽まで仔細に觀察したれば、本類の配偶子の接合は明となれり。(G. KOIDZUMI)

雜 報

Prunus subhirtella MIQ

近頃三省堂で出した博物辭典 (1938) p. 683 に *Prunus subhirtella* MIQ. (ヒガンサクラ) としてあるが之は誤である、一たい *Pr. subhirtella* MIQ. とは如何なるものかは和蘭ライデン大學に保存する MIQUEL 氏の原品を検すれば解る、原品は皆 SIEBOLD 氏採品にして、其の内標品番號 905. 83-80; 905. 83-82; 905. 83-83 の三は **チモトヒガンサクラ** (*Prunus Kohigan* KOIDZ.) であつて、905. 83-81; 905. 83-86; 905. 83-85 の三品は **ヒガンサクラ** (*Prunus Itosacra* SIEB.) である、即ち *Pr. subhirtella* MIQ. とはヒガンサクラ、チモトヒガンサクラ兩品の混合物である。(G. KOIDZUMI)

侏羅紀被子植物

1937 年 J. B. SIMPSON 氏は Scotland の上部侏羅紀の下部 Bathonian 階の Crora Coal 中より睡蓮科の *Nelumbium*, *Castalia* の花粉を發見せり、同科の花粉は最も特色あるものの一なれば容易に同定するを得たり。

金錢槭の化石

金錢槭 (*Dipteronia sinensis* OLIVER) は槭樹科の一屬一種支那に産するも第三紀には廣い分布をしたもので *Dipteronia americana* BROWN と云ふのが北米 Washington 洲 Republic の下部中新世から化石として出る。

鐵杉の第三紀分布

鐵杉 (*Keteleeria Davidiana* BEISSN.) は唯一種支那臺灣に産するのみなるが第三紀には中新世に北米 Washington 洲 Spokane に *Keteleeria heterophylloides* (BERRY) BROWN, 歐洲の鮮新世には *K. Loehri* があり、尙 Canada, Alberta の下部白亜に本屬の木材化石らしいものが發見された。